

児童館は子どもたちの遊びと育ちを支える場です

市民からの強い要望で、小平初の児童館が花小金井南地域センターとの併設で実現したのが2003年。その後十五小近くに小川町二丁目児童館が、今年3月には、小川一丁目に3館目がオープン。

2館目開館時に、市の直営方式からNPO法人ワーカーズコープによる指定管理に変わりました。以来、子ども目線、利用者本位の管理運営になり、不登校の子どもや高校生にも利用が広がるなどの成果も表れました。子ども遊び場として、また子育て支援の拠点として地域に

定着し乳幼児づれの保護者や多くの子どもたちで賑わってききました。この4月からは、3館すべて株式会社葉隠勇進に指定管理者が変わり、利用者や関係者から注目が集まっています。子どもを取り巻く環境が厳しさを増す中で、学校や家庭に居場所のない子どもたちも増えており、児童館の存在意義はますます大きくなっています。

児童館は教育の場ではありません。管理ではなく子どもに寄り添った細やかな対応や配慮が大事です。子ども参加や地域との連携を大事にして、子どもたちが子ども時代を安心してのびやかに育つ場として機能していくよう、しっかり見守っていきましよう。



木材が多く使用された室内

遊戯室に設置されたクライミングウォール



案内板は、すぐ近くにある武蔵野美術大学の学生のデザインを使用



電磁波問題について考えよう

私たちを取り囲む環境は現代社会の効率と利便性を優先する中で自然界や生物に新たな異変を発生させています。しかし、そのリスクに関する情報を私たちは取得できず不安や不信を募らせています。

電磁波については、市内でも携帯電話基地局（アンテナ）が近所に来たことから体調不良が生じた市民からの相談もきており、見過ごすことのできない問題です。

利便性とリスクは表裏一体であることから、電磁波についての情報



あちらこちらで見られる携帯電話基地局

を幅広く得て多くの市民と共有しながら、より良い解決策を具体的に考えていきます。
(環境部会)

今後の小林市政に求めること

今回、3選を果たした市長ですが、地方自治では、首長と議会の関係は二元代表制であり与党も野党もありません。言いなりや対立の構造を固定化することは、市民から政治を遠ざけ民主主義を後退させます。

生活者ネットワークは、選挙後に市長が都市計画道路3・2・8号線についての住民投票条例に成立要件を付す改正案を提出したことには異議を唱え、議会軽視・市民軽視であると断固反対しました。

まだまだ不完全な市民参加を实のあるものにする事や環境優先のまちづくり、子どもたちの育ちを応援する地域づくりなどを期待し応援しましたが、今後も行政とは緊張感のある関係を持ち、市民目線で議会活動をしていきます。